

研 修 部 だ よ り

近盲研 幼小部会 授業研究会

点字指導について

12月18日(月)、京都府立盲学校にて近畿盲学校教育研究会 幼小部会 授業研究会が開催されました。以下、参加した瀬藤先生からの報告です。

研修内容

小学部1年生単一障害児の国語科「点字指導」の公開授業参観、研究協議、情報交換会を行いました。京都府立盲学校では、当事者の気持ちになった触察指導を大切に、担任・担当間で連携していました。具体的には、毎時間、児童の様子や次時への課題等の簡単な記録をとること、「今週からナ行の学習に入ります」等の気軽な情報交換をすることを心がけているそうです。

点字指導にうつるために幼稚部段階から触る手を作ることがとても大切であること、そのためにもの確かな実態把握を行う必要があることも分かりました。

また、各校とも教員の年齢構成の高齢化に伴い、専門性の継承が急務であることが確認されました。

点字学習指導の方法や工夫・配慮については、本校の平松先生が編集協力者として名前を連ねる「点字学習指導の手引き(令和5年 改訂版)」を参考にしていました。

点字学習指導の手引
(令和5年 改訂版)



害者にとって周囲の環境を把握するために音や声がとても大切であることや、誰に向けて話しているかが分からないからこそ起きた誤解についてお話をいただきました。



広田先生は女性・子育て中の立場からお話しくれました。今までは時間がかか

っても自分でできることを増やしていきたいという思いが強かったそうですが、子育てを通して、同行援護や家事援助等、他の人の力を借りることと自分でできることの見極めが大切だと感じたそうです。

野尻先生は差別事例等についてお話をいただきました。友人が経験した、視覚障害者を乗せたことのないバスによる乗車拒否の問題を通して、視覚障害者がもっと外に出て活動することが障害者理解に繋がるとおっしゃっていました。

参加した先生方のアンケートより

- ・視点を広げてもらえる研修会でした。
- ・生の声を聞いてよかったです。
- ・様々な特性のある人々がみんな暮らしやすい社会とはどういうものかについて考えさせる貴重な事例が聞いて良かったです。
- ・相手の人が言っている言葉が自分に向けられているのかどうか、視線によって我々は判断していると改めて思われました。
- ・制度の部分や書類、人の言動・態度など、まだまだ見えない部分で苦勞されているんだなと改めて知りました。

人権研修「視覚障害者の人権」

1月16日(火)、全体研修「人権研修」を行いました。テーマは「視覚障害者の人権について」です。講師は葉先生、広田先生、野尻先生でした。

葉先生は中国のご出身。外国人の立場から視覚障